

# 臨床医学雑誌にみる引用傾向の分析

児玉 閲

東邦大学医学メディアセンター

## 1.はじめに

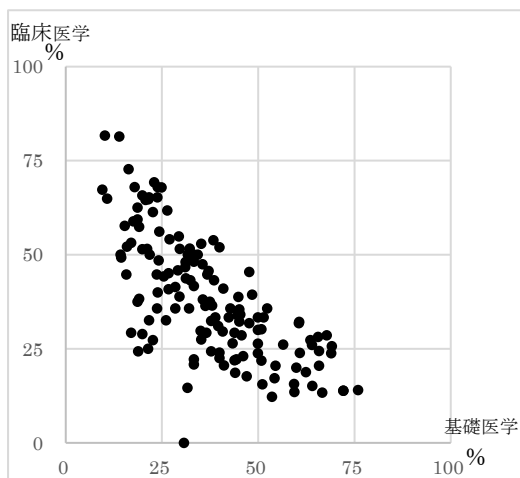
学術論文における引用では、分野ごとに、引用する文献数、出版年、分野に違いがあり、それは引用傾向と呼ばれる。医学分野においても、基礎医学と臨床医学とで引用傾向が異なる。本研究では、ここに着目し、臨床医学雑誌に掲載された研究論文が引用した文献を、その文献が掲載された雑誌を手掛かりに「基礎医学」、「臨床医学」、「その他」にタイプ分けし、そのタイプの構成比率によって被引用数に違いがあるか分析した。

## 2.対象と方法

調査する臨床医学雑誌は、**Journal of Endocrinology**(2009年)とした。Web of Scienceを使い、**Journal of Endocrinology**(2009年)の研究論文142本の引用文献6,980本と、研究論文142本を引用した3,219本の文献情報を入手した。文献情報のタイプ分けは、**Journal Citation Report(JCR)**に収録されているソース誌とそれに振られるカテゴリを手掛かりとし、「基礎医学」に22カテゴリ、「臨床医学」に33カテゴリを割り振り、それ以外を「その他」とした。ソース誌には、複数のカテゴリが振られていることがあるが、今回はひとつでも「基礎医学」のカテゴリがあれば、その雑誌を「基礎医学」とみなした。142本の研究論文それぞれについて、引用文献を「基礎医学」、「臨床医学」、「その他」にタイプ分けし、「基礎医学」、「臨床医学」の構成比率に基づく研究論文の分布をみた(図1)。

## 3.結果

図1からは、引用文献の構成比率で「基礎医学」が高いもの、「臨床医学」が高いものなど、研究論文ごとにタイプが異なることが分かった。この結果と論文あたりの被引用数



との関係を調べたところ、「基礎医学」が高いものの論文あたり被引用数は25.59、「臨床医学」が高いものは18.61で、**Journal of Endocrinology**においては、引用文献の構成比率で「基礎医学」の文献の引用が高いものの方が引用されやすいことが示された。

図1. 「基礎医学」、「臨床医学」による分布